

和具大島暖地性砂防植物群落

今回の「三重の天然記念物」は、1936年1月、県の天然記念物に指定された「和具大島暖地性砂防植物群落」をご紹介します。



お話を伺った人

志摩半島野生動物研究会

中村 みつ子さん

- ・伊勢志摩国立公園パークボランティア
- ・日本野鳥の会
- ・自然観察指導員

志摩半島野生動物研究会では、志摩半島を中心に、県内の野生動物とその生息環境の保護・保全活動に取り組んでいます。おもにアカウミガメの産卵状況、伊勢湾におけるスナメリの生息状況、県内に生息する希少動物の確認、などの調査を行っています。

大島は、壊れやすい自然だからこそ守っていく必要がある場所です。



「和具大島暖地性砂防植物群落」

「和具大島」は、志摩市の和具漁港の南方約2.5キロメートルの海上にある小さな無人島です。島の東西の低い林を結ぶように堤防が通っていて、堤防の南側は、レキ浜と岩礁で形成されています。さらに北側には、広い砂浜が広がり、ハマモト、ネコノシタ、ハマゴウなどの海浜植物群落が見られます。こうした海浜植物が群生していることから、「和具大島暖地性砂防植物群落」として県の天然記念物に指定されました。

この和具大島周辺は、地元の漁師や海女さんにとっては、よい漁場であるといえます。現在、和具大島へ渡る定期船はなく、一般の人が島に入る機会はありませんが、人の出入りが少ない無人島であるため、希少な自然環境が残されているといえるでしょう。

志摩半島野生動物研究会による「和具大島の植物調査」では、46科94種の植物が確認されています。(平成13年度「地域で守りたい自然」動植物調査参照) また、植物だけでなく、野生動物の貴重な生息地としても知られています。

今回、お話を伺った志摩半島野生動物研究会の中村さんは、和具大島において、生息する動植物の調査および保全活動を行っています。志摩生まれの志摩育ちであり、和具大島は子どもの頃、海女である母によく連れてきてもらったという思い入れのある場所です。そんな中村さんにとって、守っていききたい自然「和具大島」の魅力についてお話を聞きました。